国立国語研究所学術情報リポジトリ

日本語学習者の作文執筆過程の自己修正

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-06-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石黒, 圭 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003396

日本語学習者の作文執筆過程の自己修正

石黒 圭（国立国語研究所 日本語教育研究領域 教授）

1. 研究背景

日本語学習者の作文力をさらに効果的に伸ばすためには、執筆過程において、どのように表現を調整しようとしたのかということを踏まえて指導する必要があるのではないか。

→なぜ日本語学習者の作文に見られるような特徴や誤用に至ったのかという「プロセス」を明らかにする必要がある。

→日本語学習者が作文を執筆するさいの作文の執筆過程を分析

2. 執筆過程に関する先行研究

発話思考法（発話プロトコル法）によって作文執筆時の意識を分析する方法が中心（衣川1995,石橋2012,石毛2011など）

→文章産出に影響を与える、発話思考することは難しいなどの批判

→発話思考法以外の研究方法の必要性

アイカメラ（宮崎・宮崎2004）

文字列の入力を記録（細谷2003, 工藤ら2015）

3. 資料の概要

・JCK作文コーパス（埼玉大学の金井勇人氏を中心に構築、2000字以上の作文を収録）に収録された作文を執筆する際のキーボード操作を記録したログ。

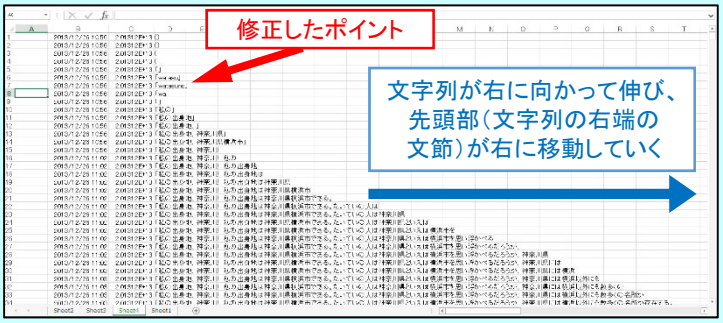
・琉球大学の新城直樹氏が開発した入力システムを使い、下記の操作をした時点の文字列を記録。

—[Enter][Backspace][Delete][半角英数字]のいずれかを押した時点

—切り取りや貼り付けの操作をした時点

テキストのタイプ	日本人	韓国人	中国人	合計
説明文「自分の故郷の紹介」	20	20	20	60
意見文「晩婚化の原因と展望」	20	20	20	60
歴史文「自分の趣味の歴史」	20	20	20	60
合計	60	60	60	180

【記録されたログデータの例】



4. 修正の位置と種類

石黒（2015）の基準に従い、下記の3点に関して、作文1本あたり日本語母語話者3名でタグ付けを行った。

（1）修正の位置＝先頭部と修正部との位置関係

❶入力箇所修正（入力）＝先頭部の修正

❷文内遡及修正（文内）＝先頭部を含む文内の修正

❸段落内遡及修正（段落内）＝先頭部を含む段落内の修正

❹段落外遡及修正（段落外）＝先頭部とは別の段落の修正

（2）修正の種類＝修正前と修正後の表現の変化

①変更／②挿入／③削除／④反復／⑤移動

（3）「推敲」＝修正部からすぐに別の修正部に移った場合など

母語別総修正数　韓国 ＞ 中国 ＞ 日本

修正の種類　日中韓すべて、変更＞挿入＞削除＞反復＞移動

日本語母語話者の特徴

「削除」が多く、学習者よりも「文内」「段落内」が多い。

中国語母語話者の特徴

位置：「入力箇所修正」が多い。　種類：「変更」が多い。

※「変更」は、タイプミス、変換ミスを修正している例が多い。

⇒中国人学習者の修正は局所的。

⇒母語の漢字が変換ミスに影響か。

⇒キーボードによる日本語入力の操作に難。

韓国語母語話者の特徴

位置：「段落外遡及修正」が多い。種類：「挿入」「反復」が多い。

※「挿入」のなかに、段落を挿入する修正が多く見られる。

⇒韓国人学習者の修正は巨視的。

⇒推敲を好み、まとめて直す傾向がある。

⇒表現をなかなか確定できない？

5. 修正の動機

石黒（2015）をベースに精緻化し、7種22項目のタグ付けを行った。

（1）入力系の修正：キーボードの操作ミスや変換ミスによる修正

入力操作の修正

（2）推敲系の修正：自分の文章を読み手の目から改善した修正

記号の修正／表現の修正（語句/節）／文法の修正／談話の修正

（3）その他　特殊な修正

母語別動機数　韓国 ＞ 中国 ＞ 日本

日本語母語話者の特徴

1. 語彙の選択肢の豊富さゆえ、表現の選択で迷う。
2. 文の先の展開を考え、執筆の過程で文法を修正する。
3. 先行文脈との対応を考えた結果、前後の調整を行う。
4. 後続の流れを文章全体から捉えて、一気に流れを変える。

中国語母語話者の特徴

1. キーボードの入力がうまくいかず修正する。
2. 漢字があるからこその読み間違いから文字の切り誤りをしたり、文字の一部を利用して修正したりする。
3. 句点を重要視し、句点の調整を多用する。
4. 細かい表現に注意が向きやすい。
5. 既存の文内の述語をベースにして修正する。
6. 文に注目しがちであるため、文単位での修飾や移動の修正をする。

韓国語母語話者の特徴

1. ルールをよく分からないまま、分かち書きに準じて、読点を入力したり削除したりする。
2. 適切な語彙の選択が難しく、表現を増やすことで説明しようとする。
3. 既存の文内の述語をベースにした修正も文の先の展開を考えた修正も両方行う。
4. 構成に目が行きやすく、段落単位で修正する。
5. 構成全体を見返すことが多く、一括で修正する。

【引用文献】石黒圭(2015)「母語話者・学習者の作文執筆プロセスにおける修正の諸相」第56回NINJALコロキウム講演、2015年2月17日、於：国立国語研究所
石毛順子(2011)「英語・韓国語・中国語を母語とする中級日本語学習者の作文過程－母語使用の観点から－」『留学生教育』16: 81-87.
石橋玲子(2012)『第2言語による作文産出の認知心理学的研究』東京：風間書房.
衣川隆生(1995)「大学院留学生はどのように文章を書き上げているか－効率的書き手と非効率的書き手の文章産出過程の特徴」『JALT Journal』17-2: 197-212.
工藤彰・岡田猛・チェン、ドミニク(2015)「リアルタイムの創作情報に基づいた作家の執筆スタイルと推敲過程の分析」『認知科学』22-4: 573-590.
細谷由理子(2003)「ワードプロセッサによる文章産出過程の特徴－手書きとの差異に着目して－」『人文科教育研究』30: 33-47.
宮崎里司・宮崎七湖(2004)「学習者の眼球運動の軌跡からみた文章産出過程－アイカメラと内省報告からの検証－」『早稲田大学日本語教育研究』5: 1-18.

本発表は国立国語研究所機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」（プロジェクトリーダー：石黒圭）の研究成果の一部である。